



2010.10.31 発行

めんたるねっと

YMSN 情報誌

(特定非営利活動法人) 横浜X列サービネットワーク

第26号

Vo1. 7 No. 2



設立 10 周年企画	企業就労 2 年以上の方たちへの座談会インタビュー 1
医療の現場から	クリニック発「レディスデイケア」のメッセージ 5
SST の現場から	日常生活での SST ～「スペース・あい」の取り組み 7
地域の現場から	横浜市自立支援アシスタント事業～半年を経過して 9
	予定・報告 11

設立 10 周年企画

就労～定着へ そしてこれから

～ 企業就労 2 年以上の方たちへのインタビュー ～

(YMSN 森川 充子)

YMSN は法人設立の年から精神障がい者の就労に対して取り組みを行ってきた。

2002 年より開始した就労準備プログラム（その後、04 年より現在まで神奈川障害者職業能力開発校委託訓練「トライ」として実施）を経た企業就労継続者数は、6 年以上が 1 人、6 年～4 年が 5 人、4 年～3 年が 14 人、3 年～2 年が 19 人（2 年以上は 39 人）である。

10 月 2 日（土）就労者 S S T（社会生活技能訓練）の終了後の時間、仕事を続けてきた方（全員 YMSN トライの卒業生）に、YMSN 事務所にて座談会形式でインタビューし、仕事の状況やこれからの抱負なども語っていただいた。インタビュー参加者は 6 人（女性 1 人、男性 5 人）である。

座談会

森川： こんにちは、皆さんが仕事を継続してこられたことについて、これからいくつか質問したいと思いますのでご協力ください。先ず**今の職場にどれくらい勤めているのか**教えてください。

塚丸さん：5 年です。

しずかさん：2 年半です。

寛さん：6 年です。

康一さん：5 年です。

太郎さん：3 年 3 カ月です。

直哉さん：2 年半です。



月 1 回の就労者 S S T

森川： では主にどんな内容のお仕事をしているか教えてください。大体のところでもいいですよ。

塚丸： パン屋のフロアスタッフです。

しずか： 伝票整理をしています。

寛： 駐車場の売上金の集金とそのまとめの仕事です。

康一： 出庫業務です。

太郎： 老人ホームでの居室の清掃や雑務（ヘルパーさんの補助）です。

直哉： 社内用の資料やチラシの印刷や発送をしています。

森川： よくここまで仕事を続けてこられていると思いますが、ちょっと嫌なことがあって途中で**仕事をやめたいと思った**ことはありませんか？

（すぐに数人手があがる）そうですか。では、どんな時にやめたいと思いました？

しずか：上司が嫌で。上司の態度がいやだった。私はやはりミスを注意された時ですね。

康一：一時期は毎日やめたいと思った。

森川：それはどうして？

康一：先ずこの仕事ができるのかなあと思っていた。毎日のように先輩に説教されたし…。それと人が多いのでけっこう人を対象にした話が多くて、陰口があって、自分のことが多いんですが他の人に対しての陰口も聞こえてとても気が滅入った。

塚丸：自分もあります。面倒くさくなったり、この仕事以外でもできるんじゃないかと思ったり、自分が失敗して追いつめられたこともあって、いろいろですね。

直哉：人間関係で上手くいかない時。

森川：人間関係でどんなことがきっかけで？

直哉：気が合わない人とやらなければいけない時。

森川：気が合わない。そういうこともあるかもねえ。

太郎：嫌がらせを受けた時、言葉とかでめちゃくちゃ言われる。やめていく人も多くて、人の出入りが激しい職場で（嫌がらせを言う人もやめていった）。

森川：やめたくなくなったこともあったのに、ここまです仕事を続けられたのはどうしてだと思います？

塚丸：やっぱり人間関係に恵まれたからだと思う。サポートしてくれる人がいてくれて…。

寛：トライで同期スタートの仲間や友人がいたこと。それからメンタルネットがあることですね。

しずか：私は人間関係で気の合う同僚がいたから何とかやれた。（職場に）入ってスタートした時期が同じで仲間みたいに励まし合えた。

康一：僕の場合は大きなミスを何度かしたけど会社が雇い続けてくれたということ。

森川：なるほどねえ。でもそれだけではないと思うけど、毎日辞めたいと思えば辞める人はいますよ。

康一：うーん、自分なりに「とにかく出勤」と、何か言われても行った方がいいと思って。その方が後でトラブルも少なくなるし。体調が悪いとき長い休暇があったこともよかった。自分としては休みたくなかったけど、その時は仕事ができる状態ではなかったから。それから仕事の割り振りを職場が配慮してくれた。

森川：直哉さん、太郎さんはどうですか？

直哉：行くことに意義があると思って行き続けたから。

太郎：理解のある上司がいてくれたことと、可愛い犬がいた。セラピー犬がいたことです。自分が担当しているんです。

寛：癒されるんですね。

森川：時には具合が悪いことや症状がでてしまって辛い時もあったと思いますが、例えば朝起きたらおかしいぞと思うような時は、どう対応していましたか？

寛：自分は具合が悪くならないように体調管理をしっかりやっています。毎日体温を測って微熱があると早めに薬や栄養剤などを飲むようにしています。

康一：頓服を飲んだりしてとにかく出勤。それで乗りきれることも多かった。早退もありましたが、とにかく「出勤」というのは体力勝負なので休むと筋力が落ちるんです。例えば、水曜日は3日めで疲れてもいるけど（立って仕事することに）一番慣れている日でもあるんです。（*他の参加者が驚くように聴いている*）それから、仕事の割り振りなど職場に配慮はしてもらいました。

塚丸：僕の場合はとりあえず行っただけ行って、職場でこんな状態と説明してとりあえず仕事をや

る。(職場の人は) 配慮してくれていると思う。

太郎：限界まで頑張っただめだと思ったら早退します。

直哉：上司に「とりあえず出て来い」といわれているので出ていきます。そのうえで仕事が無理な場合は早退させてもらい病院に行ったりします。

森川：仕事を続けるために生活面で何か気がつけたりすることがありますか？ 生活がきちんできていないと定期的に例えば部屋が整理整頓できていないと薬がどこにあるかわからなくなって飲まないで調子崩すなんてこともあると思うんですが。しずかさんの部屋は片付いていてそんなことないでしょうけど。

康一：嫌なことがあった日は7時くらいに薬をまとめて飲んで早く寝てしまう。

寛：自分はトライで薬剤師の先生に聞いてから薬がきちんと効くようにアルコールを飲まなくなりました。(＊数人から「あー」とか「そうだった」という声があがる＊) それから朝持っていくものを前日まとめて整理しておき、あわてないようにしている。物の置き場所も決めて置いています。

塚丸：何か悩みがあったら早めに相談しちゃう。それから月に1回か週に1回まとめて1日くらいは24時間眠る。寝ないとやっていけない。

森川：なるほどね。疲労とか、ストレスの解消法も入っているんですね。

直哉：やっぱり睡眠時間を十分とるようにしていること。ふだんは8～10時間眠るようにしています。疲れている時は早く寝て10時間くらい眠る。

森川：ではね、仕事を続けてきて良かったと思えることはどんなことですか？ 自分はこんな風な変化があったとかでもいいですし。

寛：大金を扱う仕事なので信頼されたことに生き

がいを感じられたことです。

康一：自分に自信がついた。

寛：1人で仕事をするので経営者の意識をもって仕事をするようになりました。

塚丸：僕は逆に自分ひとりでは仕事ができないなあと思った。それから1人暮らしができるようになった。半分は年金暮らしだけど。

森川：一人暮らしの方は？ (＊全員が手をあげる。1人は結婚して独立＊)

森川：もしかしたら、働き始めて皆さん一人暮らしを始められたの？ 太郎さんはもっと前からそれにしてもすごいですね。

太郎：僕は自分に自信がついた。

しずか：規則正しい生活ができるようになった。

直哉：自立した生活ができるようになって自信がつきました。

森川：自分が変わってきたというところではどうですか？

しずか：社会性とか普通の常識の感覚みたいなのが身についたかな。教えられた。

康一：自立した生活ができるようになり自信がついた、それからストレスをコントロールしなければいけないなあと思うようになって、ストレスにある程度強くなった。それでもストレスで今でも発症することもありますけど。

塚丸：僕もしずかさんと似ている。就職して健常者の常識とか身についたかな。

直哉：印刷の仕事をほぼ任されているという感じになって責任感がついた。

太郎：食事したり、スーパーに行ったり、出かける場面場面でこの仕事はこんな感じって、働いている人の気持がわかって前とは違う。若い時から働いているけど、生きていくのは厳しいなあと感じる。

寛：マンションを購入できた。安心感がある。た

だ給料をもらえばいいということではなく、経営者感覚で責任をもってケアレスミスもしない、間違いないようにやらなければという意識になりました。

森川：すごいですね

森川：最後にね、これから生活も含めてですけどこんな風になりたいというような希望はありますか？

しずか：仕事の体力をつけたい

康一：最近面接を受けたのですがパソコンを使った仕事がしたい。

塚丸：家庭をもちたい。こういう障がいがあっても働けることを発信していきたい。もっといろんなことを勉強したい

直哉：結婚したいなあ。今の仕事を続けたい。

太郎：30年勤めて定年になったら近所の商店街を歩いたりする気楽なじいさん、といっても認知症にかからない健康なじいさんになりたい。

寛：パソコンのスキルをあげてパソコン関連の資格をとってそれを生かしたい。インストラクターになりたい。

森川：今日はSSTの後、疲れているところを協力いただき本当にありがとうございました。

インタビューを終えて

仕事を定着させいくための努力を続けて苦労もある分、社会で獲得できたものによって自分に自信がもてていることがわかり話を聞いている私自身もうれしかった。また6人全員が何らかの形で親から離れ独立していることは率直な驚きでした。これからもたくましくなっていく姿を見せて欲しいと思いました。

(YMSN 森川充子)



YMSN研修会 後期のご案内

- プレゼンテーション 11/24 (水)、12/8、12/15 全3回 18:30~20:30
- 事例検討 12/1 (水) 開始、1/7、2/2、3/2、4/6 全5回 18:30~20:30
- コーチング 2/6 (日) 10:00~16:00
- 就労SST 2/19 (土) 10:00~16:00
- 面接技法 3/6 (日) 10:00~16:00
- グループスーパービジョン 日程調整中 全4回

会場は、YMSN研修室 (コーチングのみウィリング横浜)

「レディスデイケア」からのメッセージ ～ 横浜市港南区「上大岡メンタルクリニック」を訪問して ～

YMSNのご近所でとてもお世話になっている上大岡メンタルクリニックのご紹介が10年後にやっと実現しました。当日は、デイケアスタッフにお話を伺いました。

上大岡メンタルクリニックは1982年、院長の手島ちづ子（精神科医師）氏が横浜市港南区上大岡東に開設されました。患者層として女性及び思春期青年期の方が多いことが特徴です。このことは院長が女性であること、専門が思春期精神障がいであることが大きな要因になっているようです。

今回は、クリニック併設の「デイケア」を訪問し、お話を伺ったのでご紹介します。

1993年、上大岡メンタルクリニックレディスデイケアが開設されました。このデイケアの大きな特徴は、対象を女性限定にしていることです。

（クリニックのエントランスには「レディスデイケア」と大きく書かれています）設立時からのスタッフによると、「最初はカルチャーセンター気分を利用して利用していた女性が多く、中には習い事に来るかのごとく、社交的な雰囲気があった」と現在の違いを思い出していました。

そもそも女性を対象にしたのは、院長の方針です。クリニック開設当初から女性の患者さんが多く、DVや男性からの性的な言葉かけ、恋愛感情などを受け入れられない人たち、男性と一緒に空間にいただけで具合が悪くなってしまったり、外に出られなくなってしまっている人たちの居場所として、または家以外の安心できる場所として女



性に限定したようです。

現在、看護師1人、PSW（精神保健福祉士）2人、心理士1人、医師1人がスタッフとして関わっています。利用者は、18歳から58歳、開所当時から約17年間利用されている方もいます。登録者数は62人（内、他クリニック15人）、一日平均14～15の方が利用されています。症状別では、統合失調症64%、気分障がい14%、パーソナリティ障がい14%、知的障がい7%の割合です。

毎日のプログラムは、創作活動・DVD鑑賞・料理・外出・スケッチ・手芸などの組み合わせで、1日に午前、午後の2つのプログラムが用意されています。開所日は、月・火・水・金曜日の9：30～15：30です。ちなみに、訪問した当日は午前がゲーム、午後はペン字でした。

通所にあたってクリニックは、決まった日に通うことをお勧めしています。好きな日にふらっと立ち寄るのではなく、目標を持ち、それを目指そ

うとする人が利用することを前提にしています。

ここ最近、デイケアを利用する方の意識や目標に変化があったようです。それは、5年前から始まった委託訓練（障がい者対象の職業訓練：3カ月を標準にしたコースで、神奈川県ではトライという名称で認知されている。以下、トライという）を利用し、就職する人が出始めたことがきっかけでした。

そのことにより、デイケアを利用する目的がさらに明確になってきたそうです。デイケアの次のステップとして「就職」を目指す人が出てきました。したがってデイケアでは、不規則な生活リズムを徐々に規則的なリズムに変えたり、人が集まっている場所に一定時間いることを目指したり、コミュニケーションスキルを学び、自分のできることをより多く発見し、安心できる材料をたくさん見つけたりして、自信をつけていくことなどを達成項目とすることが重要になりました。

トライを利用した人は次のステップとして、就職した人、結婚した人、就労サービス事業所に籍を置く人など、それぞれに巣立って行きました。あるスタッフは、「病気をきっかけに自信をなくしていたり、安心できなかつたりしている方が、このデイケアで意欲を取り戻し、次のステップとして、トライでコミュニケーション力や社会性をブラッシュアップさせ、デイケアを卒業する。これってすごいでしょ。だからトライは実践につながる有効なプログラムなのよ」と話してくれました。

トライを利用したある人は、「はじめは男性がいることだけで心配だったけど、いい人たちだったし、同じ目標を持っていたから励まし合いながら3カ月過ごせた」と話してくれました。[男性だから心配] → (から) [同じ目標を持ついい人たちと励ましながら過ごした]と意識も変化して

います。

取材をして

20年前訪問したサンフランシスコで、こういったマイノリティの人たちの居場所を見学し、必要性は学んでいたものの、あまり触れずに過ごしてきました。今回の取材を通して、改めて「限定」が大事なことを学びました。

また、デイケアについて改めて整理する機会を与えられました。デイケアとは、まずは、生きる安心、人と一緒にいる安心、自分ができることを発見する。自分を肯定するようになる期間として、大切な役割を担っているのだということを再認識しました。

だからこそ、「限定デイケア」が必要なのだと整理できた取材でした。

(YMSN 鈴木弘美)

デイケア：

1958年以降、国立精神神経センターや精神保健福祉センターなどを中心に実施されていたデイケアが、1988年小規模デイケアとして点数化された。

SST の現場から

日常生活でのSST

～ 地域生活支援センター「すぺーす・あい」の取り組み ～

鈴木典子（すぺーす・あい）

「すぺーす・あい」について

すぺーす・あいには、精神障害のある方が利用する、相模原市（4月から政令指定都市になりました）にある地域活動支援センターです。2009年から地域活動支援センターになりましたが、それ以前は地域作業所として1998年から活動しています。

施設の特徴としては、作業よりも（作業所でしたが）SSTや「病気を知る」（心理教育的なもの）、自助グループなどを行い、メンバー同士の関わり作りを重視しています。日常的に病気のこと、幻聴・妄想のこと、不安についてなどが会話の中に登場。これらの事にどう付き合い、どう対処していくかを各々の体験を基にしながら語り合っています。

すぺーす・あいのSSTについて

すぺーす・あいではSSTが始まってから7年が経ちます。毎週火曜日に行い、一回のセッションは90分間、年間通して行っています。

施設内オープンスタイルで、SSTの時間にいる参加したいメンバーが行きます。参加者の最近の参加者は、4～8名ぐらいで、途中から参加する人、バスの時間だからと帰る人などかなり自由な感じです。

SSTに関する年間目標は立てていませんが（年間の個人支援計画は立てています）、活動している中で「どんなことをしたいか」「どんなこ



とで困っているか」を聞いたり、「こんなことを練習してみてもどうか」とスタッフから提案したりしてテーマを決め、SSTを練習の場として活用しています。

練習テーマは、就職面接で今何をしているか聞かれた時の答え方、買い物をする時に店員に品物がどこにあるか尋ねる、役所に書類の申請をしに行く時のやり取り、不安を周りに伝えるサインの出し方、当事者体験を発表する時の準備、サークル活動に参加した時に、隣の人にどう話しかけるか、など色々と生活していく中で必要なことを必要な時に取り上げていきます。

SSTの流れは・・・

ウォーミング・アップから入ります。参加者は常に顔を合わせているので、目的はリラックスする事よりも、SSTに意識を切り替えるということです。現在はテーマに沿って、自分の体験談を

話すということをしています。

参加者が当日報告・練習しようと予定していることを発表します。ここで、練習をする順番を決めていきます。

練習は基本訓練モデルを中心として進めていきます。練習する人が「どうやったらよいか、よく分からない」という時は、参加しているメンバーから、「どのようなやり方があるか」「自分はこうしている」など、アイデアを出してもらい協力してもらっています。

SSTが終わった後は、各々がその日に自分がやった練習内容等を記録します。その際には、ホワイトボードの板書をデジタルカメラで撮っているので、それを頼りにまとめていきます。

また、時には自分の困っていることのパターンを分析して、どこにアプローチしていくかという「当事者研究」の手法も取り入れ、実際の場面で試してみてどうか、と実験していくこともあります。

メンバーの声

このような中で行われているSSTに参加して

いるメンバーの感想は・・・

- SSTに参加してみて、実際の会話でも人とハキハキ話せるようになりました。
- 課題でロールプレイをするのが少し緊張します。みんなの困っている事を聞き、とても勉強になります。
- SSTは悩んでいる事を、メンバーのみんなの前で発表して、色々なアドバイスももらって解決できる場であるし、実際にシミュレーションを行い不安や緊張を解消できると思います。いつもは頭の中でシミュレーションしていた事を、声を出して練習できるのは良い事だと思います。生活にむずびつくSSTだと思います。

これからのSST

まだまだ試行錯誤の中でのSSTです。少しでもメンバーのやりたい事の実現にプラスになるものになっていくSSTとなるようにしていきたいです。

～TO DAY～

9:00am～	開 所
9:30am～	気分調べ・本日のプログラムについて連絡
9:45am～	午前のプログラム開始 (昼食作り・作業・ミーティング等)
11:00am頃～	「本音」タイム (この時間で「テーマ一言」や雑談したり・・・)
11:30am～	午後の続き
12:00am～	昼食 昼休み 午後のプログラム開始
1:30pm～	(作業・SST・体リフレッシュ等)
3:00pm頃～	T o e T i m e (一息つきましよう♪)
3:30pm頃～	午後の続き
3:45pm頃～	作業等の片付け
4:00pm	プログラム終了「お疲れ様でした～」

～一週間のプログラム～

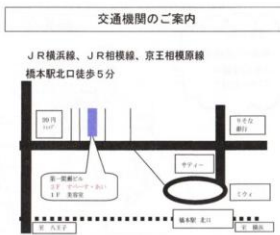
曜日	AM	PM
月	昼食作り	ミーティング
火	SST勉強会	パソコン講座(人生よするの会)
水	スポーツ:月1回 (作業)	からだリフレッシュ:月1回
木	「ぼど」のポストメィング	作業
金	ビル清掃、ミニ昼	作業

*プログラムは随時の中や、都合により随時変更もありません。
その他にも、SITG「セルフヘルプグループ」、気分を知る(心理教育)等があります。
多くのプログラムがありますよ!!

スペース・あいってこんなところ・・・

- ・悩みを聞いてもらえる
- ・助けあえる
- ・あっとほーむ
- ・まったり・・・ファイト!!
- ・気軽
- ・楽しい所
- ・社会の一員として実感できる場所

～スペース・あい メンバーより～



精神障がい者地域作業所

スペース・あい

〒229-1103
神奈川県相模原市橋本6-27-2
第一間瀬ビル301
TEL/FAX:042-779-0045
E-mail: space-ai@soleil.ocn.ne.jp



地域の取り組み

障がい者自立支援アシスタント事業について ～ 金沢区精神障がい生活支援センターでの半年間 ～

森川充子（金沢区生活支援センター 愛&あい）

金沢区生活支援センターでは、この4月より「横浜市障害者自立生活アシスタント事業」を受託し事業を開始した。この事業は現在市内で知的障がい、高次機能障がい、発達障がい、精神障がい者を対象に現在25カ所の施設が実施している。

障害者自立生活アシスタント事業の概要

この事業は「横浜市障害者自立生活アシスタント事業要綱」に基づき行われる。

この要綱第2条で事業の目的を「自立生活アシスタント事業は、地域支援職員（以下「自立生活アシスタント」という）が、施設の専門性を活かし、利用者の障害特性を踏まえた社会適応力・生活力を高めるための支援を行うことにより、地域で生活する障害者の生活の安定と福祉の向上を図ることを目的とする」としている。

市内の居住者で単身者や同居家族の障害、高齢化、長期にわたる病気等で日常生活又は社会生活上の支援を受けられない者、また家族と同居またはグループホーム・ケアホームに入居しているが、自立生活アシスタントの支援を利用しながら単身生活等への移行を希望する者を対象に訪問や電話等で生活支援を行なっていくものである。

どんな支援を行うかという点、訪問による生活支援では、衣食住、健康管理、消費生活、余暇活動に関する支援している。またコミュニケーション支援として、対人関係の調整、職場・通所先との連絡調整を行っている。

その他この事業の特徴的なことは、ただその施設が自主的に動くのではなく、必ず区の福祉保健センターが関わること、そして「夜間・休日等の緊急時にも対応可能な連絡体制を整備する」ことがあげられる。その他障害者自立支援法（以下「自立支援法」と略す）に基づくヘルパー派遣との違いであるが、大まかに手続き、継続性、費用などの点が異なる。自立支援法では、審査会で区分認定を先ず受けなければならないが、この事業は、相談、登録、支援内容の計画や確認（区福祉保健センターとの連携）、支援開始と手続き的には簡素化されている。必要があれば相談から支援開始まで1週間以内ということも可能である。費用についても自立生活アシスタントの訪問や同行等の費用を本人は負担しない。

金沢区生活支援センターにおける支援

金沢区生活支援センター（以下「当センター」と略す）では、市の当該事業要綱を受けて名称を「金沢区生活支援センター障がい者日常生活支援アシスタント事業」とし、もう少し幅を拡げ、例えば必要な時には家族支援も行えるようにしている。

スタッフは常勤1人、非常勤1人の2人体制である。4月からの支援状況は以下の通りである。

- ① 登録状況（9月末現在）16人
- ② 紹介経路は、金沢区福祉保健センター（9人）、医療機関（2人）、地域作業所（1人）、家族（1人）、本人（2人）、当センター（1人）



	世帯状況		住所地	
	単身 (人)	同居 (人)	金沢区内 (人)	金沢区外 (人)
男性	7	1	7	1
女性	4	4	8	0
計	11	5	15	1

等と様々であるが区福祉保健センターが多くなっている。

③ 登録者の状況

単身といってもひきこもりがちな人ばかりでなく作業所に通所している人もいる。また、同居でも利用者本人が親として子供を養育しなければならない立場にあり、複雑な状況を抱えている場合もある。

④ 支援内容等

では具体的にどのようにどんなことで支援しているか、衣食住（特に買い物や片付け）が今のところ最も多く、8人に行っている。健康（通院同行、服薬チェック）では4人、対人関係では2人、その他1人、*登録済みで未支援が1人となっている

頻度も個々で差があり、週2～3回、週1回、月2回、不定期と様々である。

支援は当初の支援目標が達成されれば一応区切りがついて終了といえるが、関係機関から改めて依頼があり、訪問当初計画した支援内容では不十分となるなど状況の変化により支援が延長されていく場合もある。当センターを利用し相談やSOSが出せるようになればよいと考え促しもするが、そこまでは時間がかかる人も多い。

この事業を始めて半年が経過し、振り返って強く感じたことは、先ず訪問による支援は利用者の方が実は最も人目に触れられたくないプライベートな部分にも踏み込んでいくという一面があ

ること（実際片付けで入ると部屋の汚れや乱雑さということではなく催促状やメモなどが目に触れることがある）。利用者の方たちは病むにやまれずこの事業を利用し自立生活アシスタントを信頼せざるを得ないのである。このことを私たちは重く受け止め緊張感をもって取り組まなければならないと思う。

役割的には他制度との境界が不明確な部分を担う必要が多々あるという隙間家具のような役割を避けられないことである（細かいがヘルパーが導入されているにもかかわらず、数年間居間の電灯が切れたままになっていることへの対応等）。片付けの場面で言えば利用者の方と一緒に片付けし助言することで少しずつそれを習得できるようになるというのが理想である。しかし、他の制度の合間をこちらが直接カバーしなければならないことが予想外に多い。

そして当然ではあるが**生活には休みがない**ということである。慣れているごみ出しでも初めて出すものには不安がつきまとい、ごみ出し日の朝に電話がかかったり、翌日の予定に影響が出ることは、休日や夜中にも電話が鳴る。緊急時ではなくとも、必要と思われる対応はしなければならない。24時間連絡がつく携帯電話を所持している側は常にある程度の緊張状態が続く。この辺は体制も含め今後の大きな検討課題であると考えている。

ただ、今はこの奥深い仕事を新たに学ぶこともの多い貴重な経験として続けて生きたいと考えている。

研修会のお知らせ

■ 精神保健福祉研修会 参加費 1回 500円 (年間 4,000円)

日 時 : 毎月第2金曜日(全12回) pm. 7:00~8:30
 場 所 : YMSN 研修室 横浜市港南区上大岡西 1-12-3-301
 内 容 : ホームページをご覧ください <http://forest-1.com/ymsn/>

■ S S T (生活技能訓練) 研修会 参加費 1回 1,000円 (年間 7,000円)

日 時 : 毎月第3木曜日(8月・12月休会 全10回) pm. 7:00~9:00
 場 所 : 横浜市総合保健医療センター 講堂
 全体会 : 各施設・現場での S S T 実践報告・ケースレポート(参加者の持ち回り)
 分科会 : A. 初心者コース B. リーダー体験中級者コース C. ステップ・バイ・ステッ
 プコース D. 基本会話モジュール

当事者のためのグループ活動のお知らせ

詳細は各支援センターへお尋ねください

就労講座	港南区生活支援センター	毎月第3水曜日(原則) pm. 2:00~3:00
	泉区生活支援センター	日程についてはお問い合わせください
就労フォロー アップミーティ ング	港南区生活支援センター	毎月第2土曜日 pm. 2:30~3:30
	神奈川区生活支援センター	毎月第4日曜日 pm. 2:00~3:00
	YMSN	OB会の開催(不定期)
S S T	YMSN(就労者の S S T)	毎月第1土曜日 pm. 1:00~3:00

会員について

会員を募集します。YMSNの活動を応援していただける方は会員になってください。(会費 正会員年間5,000円)
 会員は、研修会(上記案内)への年間参加費が割引になります。
 精神保健福祉研修会(1,000円) S S T研修会(3,500円)
 会員へは、情報誌が無料配付されます。

正会員5,000円(個人) 賛助会員12,000円(団体)
 (正会員・賛助会員にはYMSN情報誌を無料配付)

振込先: 郵便振替口座 00250-6-71607
 横浜メンタルサービスネットワーク

季刊 YMSN情報誌 Vol. 7 No. 2

めんたるねっと 第26号 2010年10月31日発行

間購読料1,000円(年4回発行) 1冊頒価300円

発行: NPO法人 横浜メンタルサービスネットワーク
 理事長 鈴木弘美 編集代表 森川充子
 〒233-0002 横浜市港南区上大岡西 1-12-3-301
 TEL 045-841-2179
 FAX 045-841-2189
<http://forest-1.com/ymsn/>
 e-mail: ymsn@forest-1.com

印刷: 横浜市総合保健医療財団
 精神障がい者授産施設 港風舎印刷